

あおもりノーリフティングケア推進事業

現状と課題

～介護の現場では～

- 働く上での悩み、不満、不安
～腰痛・体力に不安がある→35.5%
(平成29年度介護労働実態調査青森県版)
- 社会福祉施設における労働災害の約1/4が腰痛 (H27年発生状況・青森労働局)
- 持ち上げない介護、ノーリフティングケアの研修は好評であるが、根付かない。
- リフトを導入しても活用されない。
→抱えた方が早い。福祉機器を使う抵抗感。



～利用者の立場では～

- 持ち上げる介護、引きずる介護による
・体が痛い、関節拘縮、褥瘡を招くという**身体的負担**
・「介護職員に重い・きつい思いをさせている」という**精神的負担**



課題解決に向けて

ノーリフティングケア導入

- ①ノーリフティングケアに取り組む意義や目的、正しいケア技術と適切な機器活用について学べる**研修**を提供
- ②**組織全体**で取り組む体制や風土をつくる
- ③実践施設による**成功事例**を創出

ノーリフティングケアとは

介護する側・される側双方において安全で安心な

持ち上げない・抱え上げない・引きずらないケア

=身体の間違った使い方をなくし、対象者の状態に合わせ、適切にスライディングボードやリフト等の福祉機器を活用してケアを行う。



具体的な取組

1 あおもりノーリフティングケア推進研究会設置

- ・青森県のノーリフティングケアをどのように進めるかを協議する研究会を設置 (施設代表者、学識経験者、職能団体等)

2 指導者養成

- ・ノーリフティングケア指導者養成 (中央研修への派遣)

3 意識改革と体制づくり(組織を管理者と職員の両面から動かす)

①管理者向け研修

- ・職場の労働安全衛生という視点を踏まえてノーリフティングケアを推進する必要性や期待される効果を伝える。

②事業所リーダー職員向け研修

- ・力任せの介護が職員や利用者にも及ぼす影響をしっかりと認識した上で、正しいケア技術の習得や職場における課題分析と改善手法の検討を行う。

③先進モデル施設による成功事例の創出

- ・組織全体でノーリフティングケアを実践するモデル施設
- ・組織全体で総合的なマネジメント研修を受講

→エビデンスに基づく情報を発信し、ノーリフティングケアを推進

期待される効果

- ①介護職員の負担軽減 (腰痛改善)
- ②利用者の状態改善
- ③業務の効率化
- ④介護職員確保・定着 (働きやすい職場)
- ⑤介護の仕事のイメージアップ